

福岡大学

西新病院ニュース

2021 vol.2 夏

福岡大学西新病院

心臓血管・リズムセンターの紹介

内科診療部長 森井 誠士



福岡大学西新病院では、令和3年4月より、循環器診療の充実を図るために心臓血管・リズムセンターを開設いたしました。循環器専門分野は三浦伸一郎病院長、西川宏明副病院長を含めて常勤医9名体制(日本循環器学会専門医6名)で診療を行っております。西川宏明副病院長(心血管インターベンション治療学会専門医・指導医)を中心とした冠血管形成術(PCI)に加え、当院ではローターブレードやダイヤモンドバックも使用可能であり、あらゆる病変に対して的確に診療を行っております。それに加えて則松賢次医師(心血管インターベンション治療学会認定医、動脈硬化会専門医・指導医)が閉塞性動脈硬化症(ASO)の患者さんに対して積極的に末梢血管形成術(EVT)を施行しております。不整脈治療では福岡大学病院で長年不整脈診療に従事し、今回、内科診療部長を拝命いたしました森井誠士(日本不整脈心電学会認定不整脈専門医)がカテーテルアブレーションやペースメーカー植込み術等を長田芳久医師と共に行っており、平日は常時治療が可能になりました。弁膜症や心不全に関しては河野靖医師(超音波専門医・指導医)や二見真紀人医師(重症心不全・移植専攻医育成プログラム修了)、大西菜月医師を中心に、心エコー、経食道心エコー等で正確な弁膜症や血栓等の評価、また重症心不全治療から地域包括ケア病床まで幅広く診療を行い、外来での心臓リハビリテーションも積極的に行っております。また、現在COVID-19感染症が猛威を振るい、病院等でもクラスター等のニュースをたびたび耳にしますが、当科は病棟医長の井上寛子医師がインフェクションコントロールドクター(ICD)の資格を有しており、今年はCOVID-19の院内での感染は認めておらず、安全に診療が行えております。

当院の循環器診療は、これまでの急性期医療に加え、慢性期・維持期医療まで整備され、24時間365日患者の受け入れが可能です。



地域包括ケア病床を開設

当院では、8月1日、急性期治療後の在宅復帰に向けた医療や支援、リハビリ等を行うため、3階病棟に【地域包括ケア病床】を開設いたしました（16床）。

★地域包括ケア病床とは・・・

患者さんの状態に応じたリハビリや医療ケアを包括的に行い、ご自宅等での生活に自信をもって復帰してもらうための支援を行う専用の入院病床です。

★受け入れ対象となる方★

- ◎急性期での治療によって状態は安定したものの、しばらく経過観察などが必要な場合や、自宅や介護施設等での療養生活への復帰に向けたリハビリが必要な場合
- ◎自宅や介護施設等で療養生活を送っている方の状態が急に悪くなった場合

★入院費用について★

- ◎「地域包括ケア入院医療管理料2（2,620点）」を算定します。

入院料は定額で、入院基本料・リハビリテーション料・投薬料・注射料・処置料・検査料・画像診断料等、ほとんどの費用が含まれます。

（但し、患者さんの容態が変わり、治療内容に変更があればこの限りではありません。）

★注意事項★

- ①地域包括ケア病床での入院期間は、患者さんの状態に応じて調整しますが、60日を限度としております
- ②病状の変化により、医師が集中的な治療が必要と判断した場合は、一般病棟に転棟（お部屋の変更）していただく場合があります

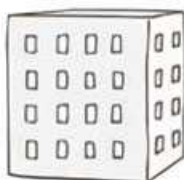
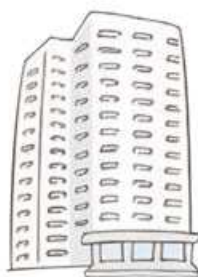
ー地域包括ケア病床のしくみー

急性期病院

転院

西新病院

地域包括ケア病床



在宅復帰へ向けた
病状管理とリハビリ

入院又は転院

入院期間
最長 **60** 日間

退院

自宅・介護施設

有床診療所等



入院のご相談は
コチラ

地域医療連携センター

092-831-1211 (代表)

受付時間(平日) 9:00~16:30

FAX:092-842-4066(直通)

ー医療機関・介護施設の皆様へ

患者さんをご紹介いただける場合は、
地域医療連携センターまでご連絡下さい。

ー患者さんやご家族の方々へ

地域包括ケア病床について詳しく知りたい場合は
地域医療連携センターへご連絡ください。

当院の栄養管理について

栄養部主任 松崎 景子
NST専従看護師 柳谷 基子

栄養部は、「食事は治療の一環であり、実践できる栄養指導を行う」を目標に、安全で美味しく治療効果の上がる食事の提供、行動変容のための栄養指導に日々励んでおります。季節を感じられる行事食についても、年間15回と力を入れて取り組んでいます。

個人栄養指導では、健康維持のため、入院・外来の患者さんへ実践できる指導を管理栄養士3名で行っています。患者さんの年齢・家族構成・嗜好・外食の利用頻度・間食の摂取等食生活についての聞き取りを行い、各疾病・ライフスタイルに対応した内容となっています。集団栄養指導では、糖尿病教室・減塩教室を開催しています。

また、入院患者さんの高齢化に伴う栄養不良、咀嚼・嚥下力の低下など栄養状態の改善が必要な患者さん方へNST(栄養サポートチーム)が介入させて頂いています。NSTとは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士がチームを編成して最適な栄養療法を提供していく仕組みのことです。栄養補助食品などの治療に必要な栄養素が含まれる食品の提供や、食べやすい食事内容及び食事形態の工夫を行っています。また、静脈栄養療法の提言や服薬指導も行っています。

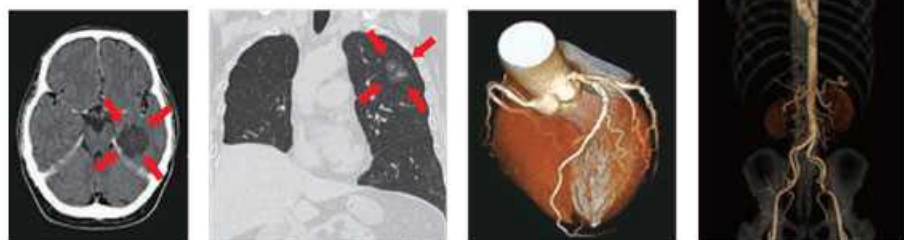
安全で美味しい食事の提供、実践できる栄養指導を通し、日々治療の支援を行っています。患者さんの1日も早い回復を願い、スタッフ一同、より一層精進して参ります。



高速マルチスライスCTで簡単に精密検査が受けられます

令和3年5月に80列マルチスライスCTを導入しました
頭部から胸部、腹部、四肢などの全身の診断が可能です

- 高速撮影により息止め時間が大幅に短縮
- 精密検査時の苦痛や造影剤の量も低減可能
- 最も薄い0.5mmスライス厚で撮影することにより、小さな病変の検出能向上
- 最新の技術により被ばく線量低減が可能



心臓CT検査について (冠動脈CT検査)

①何がわかるの？

心臓は、血液を全身に送る“ポンプ”の働きをしています。ポンプとして働くために、心臓の筋肉自身も、酸素や栄養を必要とします。その血液を供給するのが、心臓を取り囲むように広がっている「冠動脈」と呼ばれる血管です。血管壁が硬くなる「動脈硬化」が進行し、血管の内腔が狭くなるのが「狭心症」、完全に詰まるのが「心筋梗塞」です。冠動脈CT撮影を行うことで、このような所見を発見することができます。

②どのような検査？

肘の静脈から造影剤を注入してCT装置で撮影します。コンピューターを使い、心臓の画像を立体的にいろいろな方向から観察し、冠動脈や心臓全体の状態を詳しく検査します。

検査時間は、約30分程度（着替え、検査の説明、造影剤を使用する際の点滴）です。

※心拍数60以上の方は、前処置として検査前にお薬を内服し60～90分程度お待ちいただきます。